

【広島市消費者物価指数】

1 平成 26 年 6 月の動向

- 広島市総合指数（102.9）は前月比で 4 か月連続の上昇。前年同月比は 12 か月連続の上昇。
- 生鮮食品を除く総合指数（102.7）は前月比で 4 か月連続の上昇。前年同月比は 12 か月連続の上昇。
- 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数（100.4）は前月比で 5 か月ぶりの下落。前年同月比は 9 か月連続の上昇。

2 総合指数、生鮮食品を除く総合指数、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数

	指 数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
総 合 指 数	102.9	0.2	3.4
生鮮食品を除く総合指数	102.7	0.1	3.0
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数	100.4	▲0.1	2.1

3 前月からの動き

～食料は上昇、家具・家事用品は下落。～

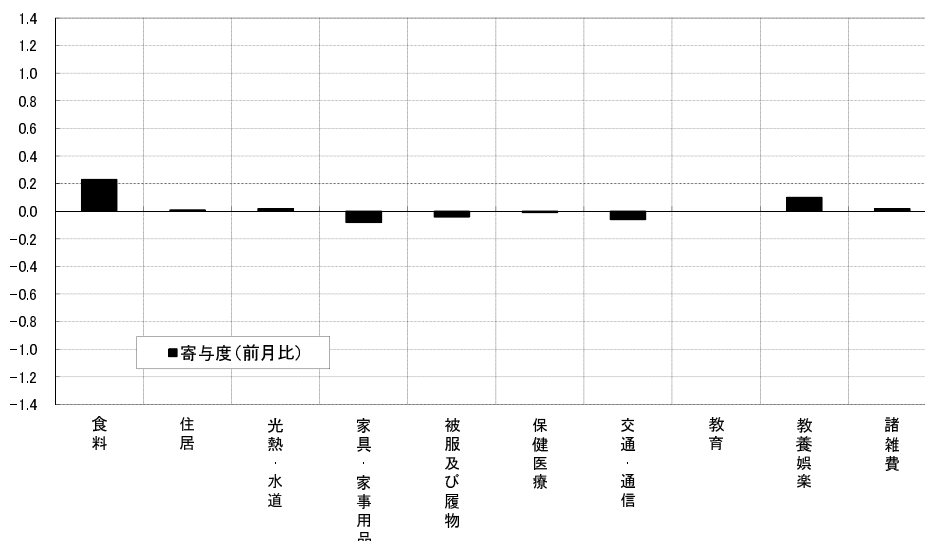
(1) 10 大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指 数	102.9	104.2	99.1	114.9	97.1	103.8	100.0	104.6	97.6	97.4	109.0
前月比 (%)	0.2	0.9	0.0	0.2	▲ 2.1	▲ 0.9	▲ 0.2	▲ 0.4	0.0	0.9	0.2
寄与度	0.2	0.23	0.01	0.02	▲ 0.08	▲ 0.04	▲ 0.01	▲ 0.06	0.00	0.10	0.02

(参考) 主な要因となっている 10 大費目について、寄与の大きかった中分類項目

食 料：肉 類（前月比 3.7%，寄与度 0.08）等
 家具・家事用品：家庭用耐久財（前月比 ▲4.6%，寄与度 ▲0.07）等

図 1 10 大費目別前月比寄与度



(注) 寄与度：物価全体（総合）の上昇（下落）に、各費目がどれだけ影響したかを示したもの。本来、寄与度の合計は、総合指数の前（年同）月に対する変化率となるが、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目 (寄与度順)

上 昇		下 落	
項 目 (主な品目名)	前月比	項 目 (主な品目名)	前月比
教養娯楽用耐久財 (テレビ 等)	8.6%	家庭用耐久財 (ルームエアコン 等)	▲4.6%
肉類 (牛肉国産品 等)	3.7%	教養娯楽用品 (トレーニングパンツ 等)	▲2.7%
魚介類 (えび 等)	2.5%	通信 (携帯電話通信料 等)	▲1.0%
果物 (さくらんぼ 等)	3.8%	履物類 (婦人靴 等)	▲3.6%
外食 (うどん 等)	0.7%	寝具類 (ベッド 等)	▲6.0%

4 前年同月からの動き

～食料, 教養娯楽及び光熱・水道は上昇, 教育は下落。～

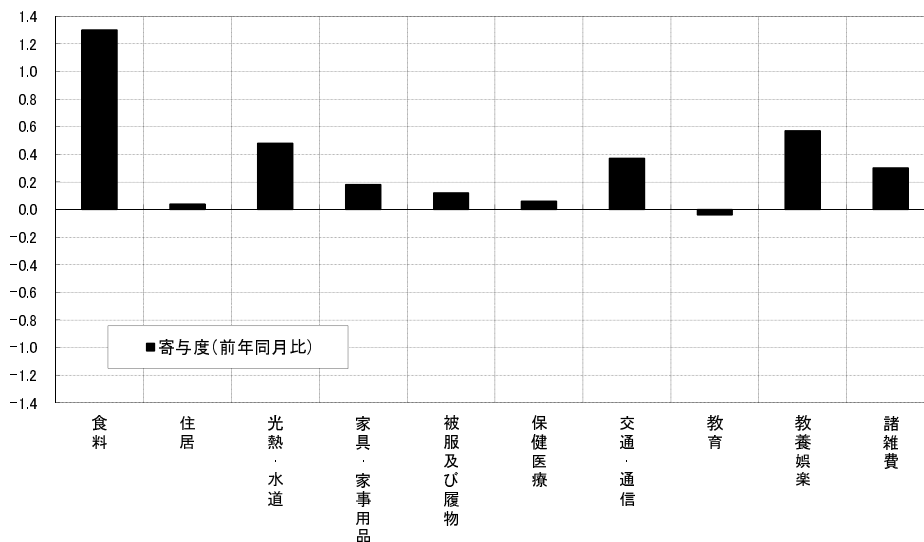
(1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
前年同月比 (%)	3.4	5.2	0.2	6.0	4.8	2.6	1.4	2.6	▲1.2	5.3	4.7
寄与度	3.4	1.30	0.04	0.48	0.18	0.12	0.06	0.37	▲0.04	0.57	0.30

(参考) 主な要因となっている10大費目について, 寄与の大きかった中分類項目

- 食料: 野菜・海藻 (前年同月比 11.1%, 寄与度 0.28) 等
- 教養娯楽: 教養娯楽用耐久財 (前年同月比 12.8%, 寄与度 0.21) 等
- 光熱・水道: 電気代 (前年同月比 6.9%, 寄与度 0.27) 等
- 教育: 補習教育 (前年同月比 ▲12.4%, 寄与度 ▲0.07) 等

図2 10大費目別前年同月比寄与度



(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目 (寄与度順)

上 昇		下 落	
費 目 (主な品目名)	前年同月比	費 目 (主な品目名)	前年同月比
野菜・海藻 (アスパラガス 等)	11.1%	家賃 (持家の帰属家賃 等)	▲0.8%
電気代 (電気代 等)	6.9%	補習教育 (補習教育[小学校] 等)	▲12.4%
魚介類 (えび 等)	10.8%	室内装備品 (照明器具 等)	▲4.6%
外食 (焼肉 等)	4.8%		
教養娯楽用耐久財 (テレビ 等)	12.8%		